

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-63C	13-043	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名 (原題/訳)</b>		
Alcohol consumption and PSA-detected prostate cancer risk--a case-control nested in the ProtecT study. 飲酒量と PSA 値による前立腺がんのリスクについて ; ProtecT Study から		
<b>執筆者</b>		
Zuccolo L, Lewis SJ, Donovan JL, Hamdy FC, Neal DE, Smith GD		
<b>掲載誌</b>		
Int J Cancer. 2013 May 1;132(9):2176-85. doi: 10.1002/ijc.27877. Epub 2012 Oct 25		
<b>キーワード</b>		<b>PMID</b>
飲酒、前立腺がん、PSA、ネステッド症例対照研究		23024014
<b>要 旨</b>		
<p><b>目的：</b>                      アルコールに発癌作用があることは確実であり、複数の前向き研究で大量飲酒者はリスクが高いことが示されているが、前立腺がんに対するリスクはまだ確立していない。本研究の目的は、アルコールがPSA値と前立腺がんにどのように作用するか検討することである。</p> <p><b>方法：</b>                      イギリスのランダム化比較試験であるProtecT Studyから、年齢と診療所でマッチさせた2,386名の前立腺がん発症者と12,727名の対照者のデータを用いた。ロジスティック回帰を用いてPSA値と前立腺がんの相対危険度を病期毎に算出し、週の飲酒量と飲酒様式との関連を検討した。</p> <p><b>結果：</b>                      週の飲酒量が10単位増加すると、PSAが低く (RGM 0.98 95%CI;0.98-0.99)、グリーソン分類が低く (RR 0.96 95%CI;0.93-0.99)、前立腺がんの悪性度が高く (RR 1.04 95%CI;0.99-1.08) なり、これらはBMI、血圧、合併症、その他の要因では説明されなかった。</p> <p><b>結論：</b>                      本研究は、飲酒量が多い群で PSA 値が低いことを一般集団で示した初の報告であり、前立腺がんの発見において公衆衛生上の示唆を与える。大量飲酒は悪性度の高いがんのリスクであることが示唆されたが、アルコールと悪性度の低いがんとの関連を明らかにするため多様な病期を含む大規模なコホート研究が必要である。</p>		